

***** 2009.9.25 発行 *****

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

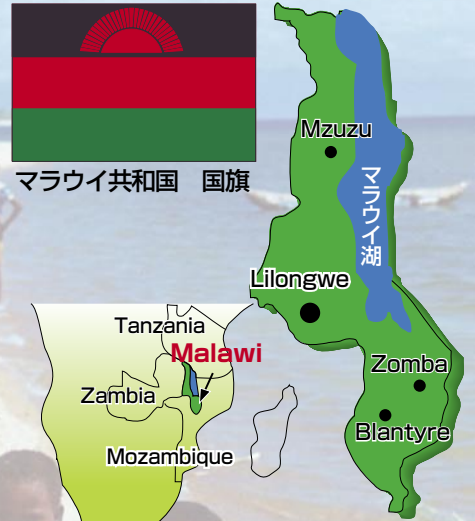
編集・発行：日本マラウイ協会
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付
Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
E-mail japan-malawi@auone.jp

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
人口：1360 万人 (2006 年世界銀行)、首都：リロングウェ
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
政体：共和制、大統領：ピングワ・ムタリカ
為替レート：US\$1 = MK 143.358 (9 月 5 日現在)
MK 1 = 0.68045 円(9月5日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：280人(9月1日現在)



マラウイ共和国 国旗

ニュース ビングワムタリカ大統領再選



2009年5月19日(火)、マラウイの大統領選挙と国会議員選挙が行われた。大統領選挙には7名が立候補し、ビングワムタリカ氏が2期目の再選を果たした。各候補者の得票数は次のとおり。

▲ムタリカ大統領

| 氏名 | 政党 | 得票数 |
|--------------------------------|-------------|-----------|
| 1. Dr Bingu Wa Mutharika | DPP | 2,946,103 |
| 2. Mr John Tembo | MCP | 1,370,044 |
| 3. Mr Kamuzu Walter Chibambo | PETRA | 35,167 |
| 4. Mr Stanley Edington Masauli | RD | 33,887 |
| 5. Ms Loveness Gondwe | NARC | 32,160 |
| 6. Mr James Nyondo | Independent | 27,328 |
| 7. Mr Gowa Dindi Nyasulu | AFORD | 20,151 |

一方、国会議員選挙ではビングワムタリカ氏が率いるDPP(民主進歩党)が193議席中、過半数の137議席を占めた。(資料提供：駐日マラウイ大使館)

ニュース 第27回通常総会開かれる

日本マラウイ協会の第27回通常総会が2009年5月23日(土)15:00から、東京・渋谷のJICA地球ひろばセミナールームで開かれた。

第1号議案では平成20年度事業報告と決算報告および会計監査報告が次の4つの分野について行われた。

- (1) 広報活動：機関紙KWACHA第40号記念号、第41号発行など
- (2) 文化・交流活動：国情セミナー・シマを食べる会開催など
- (3) 国際協力活動：第5回マラウイウォームハートプロジェクト「観光施設建設プロジェクト～お土産店建設および観光用牛車製作」への支援、マラウイ母の会への協力など
- (4) 組織活動：会員の入会勧誘活動など。

第2号議案の平成21年度事業計画と予算案では、前年度と同様に広報活動、文化・交流活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開していくことが示された。

第1～2号議案は質疑応答の後、議長が一同に語り、満場一致で承認された。



▲審議の様子

第3号議案の役員改選に関する件では、池田理事、堀添理事、稲田理事、仲井理事、松嶋理事、進藤理事、松本理事の7名が退任し、殿村孝氏(マラウイ派遣・S47年度1次隊、道路設計)と本作芳英氏(マラウイ派遣・S47年度1次隊、道路設計)の2名が新理事になることが満場一致で承認された。

レポート 第5回マラウイウォームハートプロジェクト最終報告

当会が在マラウイ青年海外協力隊員などからの申請により資金協力を実施している「マラウイウォームハートプロジェクト」の第5回として「観光施設建設プロジェクト～お土産店建設および観光用牛車製作」が完了した。申請者は平成18年度3次隊小松原裕子隊員(村落開発普及員)と平成19年度4次隊 高岡倫也隊員(村落開発普及員)で、今般、代表して高岡倫也隊員から最終報告書の提出があったので掲載する。なお、KWACHA第41号の中間報告書もあわせてご覧下さい。

平成19年度4次隊 村落開発普及員 高岡 倫也

1. プロジェクト内容

以前、平成16年度3次隊観光隊員の松永恵隊員がMPALALE村をダンスショーの見られる観光村として開発した。しかし松永隊員の帰国後、観光村をサポートする人間が不在となり、観光村への客足は遠のいていった(松永隊員は、ボランティアがいなくなっても、このプロジェクトが続くようパンフレット作成、宣伝などまでしたが、実際はうまく回らず客足は遠のいていた)。そこで2008年8月、平成18年度3次隊 村落開発普及員 小松原裕子隊員(2009年3月帰国)とともに観光村の復興支援を開始した。

設立 25 周年記念誌 発刊！



日本マラウイ協会は2008年2月26日に設立25周年を迎えました。これを節目に、これまでの当会の活動の足跡を記し、新しい会員の方々の今後の活動の参考のために設立25周年記念誌の作成を計画しました。当初は2008年度末(2009年3月末)の発行を予定していましたが、諸般の事情により大幅に遅れ今回に至りました。

会員の皆様にはこのKWACHA第42号とともにお届けしましたが、若干余部がございます。ご希望の方には送料込み1,000円でお分けいたします。4面に記載の当会口座宛に送金いただくとともに、メールで記念誌希望の旨をお知らせください。

< Vision >

- 松永隊員が開発したダンスショーを継続するとともに、より多くの住人が現金収入機会を持てるよう土産店を建設し、マーケット創出する。
- 観光客用牛車を製作することで、デッサタウンからの移動手段の選択肢を増やす。
- 土産店建設後、住人へビジネス トレーニングを行う。



▲土産店全景と牛車用ベンチ

<ウォームハートプロジェクトに関する活動内容>

- 土産店建設による住人への現金収入機会向上
- 牛車製作による幹線道路M1からの交通手段確保

2. プロジェクトの経緯

- 2008年9月 ウォームハートプロジェクトへ申請
- 10月 土産店建設及び牛車製作開始
- 2009年2月中 土産店建設及び牛車製作終了
- 2009年2月末 土産店完成記念パーティー開催

当初の予定では土産店完成は2008年11月末(雨期開始前)だったが、MPALALE村内の9つの集落に分担されていた資材の入手・搬入が大きく遅れたため雨期開始前には土産店は完成しなかった。

雨期に入ると建設業者は作業を行えなくなり、スケジュールは徐々に遅れて行った。途中、建設業者がデザインを勝手に変更・お金を持って夜逃げなどがあり土産店建設自体がストップするかと思われたが、住人がすぐに他の建設業者を探してくれたため、作業が止まることはなかった。

一方で窓やドアなどを担当する大工の作業は大幅に遅れた。2008年8月には仮注文をしていたが、彼らの仕事が終わったのは2009年2月であった。さまざまなトラブルが起こったが、住人の力強い協力もあり、なんとか4ヶ月遅れの2009年2月中には土産店建設及び牛車製作は完了した。

土産店が完成すると、住人から「土産店完成記念パーティーを開催したい」という申し出があったが、パーティーを行う費用などなく、当初は「実際に収入を得てからその金でパーティーを実施すべきだ」とボランティア側はパーティーに反対だった。しかし、文化的にパーティーはほぼ必須であること、そしてゲストを呼ぶことにより観光村を宣伝したいという住人の意思を受け、完成記念パーティーを実施した。費用は観光村委員会(注)・MPALALE村村長と9つの集落の長の出し合い及びボランティア側からのローンにより捻出した。

(注) 観光村委員会の動きは以下の通り。

- ・ダンスショー予約受付
- ・グレンクール(マラウイの伝統舞踊)の踊り手チロンボとの出演交渉
- ・ダンスショー当日の準備
- ・ダンスショーの進行
- ・毎週水曜日に行われる定期ミーティングの開催
- ・Village Development Committee (以下VDC) へのレポート



▲ 土産店の看板

<土産店完成記念パーティーの費用詳細>

費用は昼食及び飲み物代に使われた。昼食の料理はシマ・米・ヤギ肉のおかずであった。

- A) 観光村委員会 @MK250 × 9人 = MK2,250 (ゲストへの料理 おかず)
 B) 村長と集落の長 @MK300 × 10人 = MK3,000 (ゲストへのソフトドリンク代)
 C) JICA(国際協力機構) ボランティア MK6,500 (ゲストへの料理米と山羊肉)

合計A) + B) + C) = MK11,750

※ JICA ボランティアからの出費は、観光村委員会の自意識を保つためローンとしてある。2009年5月25日現在、返済額はMK2,000のみ。今後ダンスショーがあるごとに返済を求め、早めに返済を完了してもらう予定である。

完成記念パーティーに訪れたゲストはデッサ県知事・農業省職員・JICA事務所職員で、観光村プロジ

クトの説明・土産店の説明・ダンスショー実演などを行った。各ゲストからのスピーチもいただいた。なお、土産店の収入管理は観光村委員会のメンバーでもある「Dedza Art Shop」のオーナーが行っているが、今後、土産店運営を専門に管理する組織を作り、より効率的な運営を目指す。

土産店の建設・牛車製作後は、本格的にビジネストレーニングを行う予定だったが、土産店完成と雨期の終了がほぼ同時期であったこともあり、ビジネストレーニングをどのように行うかも考える暇もないまま、観光客の訪問が増え始めた。さらに観光客を受け入れることで早急に解決しなければならない課題が多く現れはじめた。課題に関しては後述する。毎週水曜日に観光村委員会が行っている定期ミーティングの議題はこの問題抽出が主なものであるが、委員長を中心に活発に議論がなされ、徐々に自ら問題を解決していこうという意識が強くなってきているように感じる。そのほか観光村委員会独自の判断でダンスショーの合間にチェワ語の劇を演じている。これは観光客を受け入れる際の「客を「アズング(チェワ語で外人の意)と呼ばない」「客に「Give me money」と言わない」という二つのルールを住人に教えるものである。現在も住人の間で以上の二つのルールはしっかり守られている。ただ、最近VDCが観光村委員会をコントロールしようという動きが出てきていることが今後の活動に影響を与えないかと懸念している。この件に関しては、ボランティアがVDCと観光村委員会の関係を調整していく予定である。

3. 会計報告

| | |
|------|-----------------------|
| 申請金額 | MK190,655 (148,081円) |
| 受領金額 | MK207,200 (USD1,480) |
| 支出概要 | 資材・労働費及び燃料費 MK207,200 |

4. 今後の課題

ウォームハートプロジェクトの支援による土産店建設及び牛車製作が終わった今、課題は観光村の魅力の向上である。その内容は以下のとおりである。

●ダンスショーの充実

土産店建設及び牛車製作がなされたものの、やはり観光村のメインはダンスショーである。しかし、現状まだまだダンスショーの質は向上しようと考えている。まずはダンサーの衣装を用意したい。現状ダンサーは1グループを除いて普段着を着て踊っているが、「ダンスショー」と銘打っているだけに華やかさが必要となってくる。そこで今後ダンサー衣装の製作を考えている。また観光客のほとんどは外国人であるため、ダンスの意味に興味をもつことが多い。そこでダンスの意味を説明したプログラムの作成を検討中である。しっかりした英語でダンスの意味を説明できる住人が少ないため、プログラムの役割は小さくはない。さらにダンスショーのトリを務めるチロンボ(伝統舞踊グレンクールの踊り手)の教育も進めなければならない。今のところ、彼らのダンスは非常に質が低い。一方で多額の出演料やチップを要求してくるため、観光村委員会としては非常に苦労している。チロンボはマラウイ人にとって文化的に重要なものであり、これまではなかなか対話できない存在であった。しかし、実際にダンスショー全体の質に大きな影響を与えている以上、直接の対話が必要かもしれない。



▲ Mpalale 観光村(左端・小さいほう)とDedza Pottery(右端)の看板

●商品の充実

土産店が完成し、今後はこの土産店をいかに村全体の現金収入機会向上に結び付けるかがポイントとなってくる。土産店が完成した直後の現在、販売されている商品は、ピーワックス・トマトジャム・野菜で決して魅力的なものばかりではない。特に野菜を購入する観光客は少なく、より魅力的でより付加価値のある加工商品を販売することによって収入を増やしたい。また、幸いにもMPALALE村出身者に「Dedza Art Shop」というリサイクルペーパーを利用した工芸品を販売する土産店のオーナーがいるので彼の協力を得て、工芸品の販売も目指したい。また前述したように、土産店運営組織を作り、住人達による運営を目指す。

●パンフレットの修正

訪問客の増加も観光村の課題の一つである。現在口コミ、Webページ(NorwichDedza Organization作成)、そしてパンフレットが集客の手段となっている。16年度3次隊 松永隊員が3年ほど前にパンフレットを作成したが、現在情報が古いものとなっている。今後、問合せ先及び価格の修正が必要である。また、Webページの内容も古いパンフレットの内容と同一であるため、Norwich Dedza Organizationに働きかけて修正してもらう必要がある。

(注) Norwich Dedza Organizationのホームページ <http://www.visitdedza.com/MpalaleDanceVillage.aspx>

以上

イベント 国情セミナーとシマを食べる会

日本マラウイ協会では2009年7月4日(土)、マラウイ独立45周年を記念して、東京・広尾のJICA地球ひろばで国情セミナーとシマを食べる会を開催した。

今回の行事に参加された青年海外協力隊 平成21年度3次隊候補生の中嶋英里さん(村落開発普及員)からの寄稿を下に掲載する。

初めてのシマ、マラウイ料理は「勇気の味」

平成21年度3次隊候補生 中嶋 英理

私は7月4日の「シマを食べる会」に参加させていただいた中嶋英理と申します。私は、昨年秋の募集で青年海外協力隊(村落開発普及員)に応募し、現在は10月からの訓練を待つ隊員候補生の身分です。私と協会との出会いは、今年4月の「協隊まつり」で、テントにいた協会理事にマラウイの情報や協会の活動などを伺ったのが発端です。その後、同理事が、定例会や毎年夏恒例の人気行事という、この「シマを食べる会」の開催をお知らせくださいました。

前半の「国情セミナー」は午後2時から始まり、ゴンドウ駐日マラウイ共和国大使閣下より、選挙後の国内動向、国内産業の状況や、独立45周年を迎えたことなど、最新情報をお聞きしました。日本から遠く離れ、日本ではなかなか得難いマラウイのお話に大変興味深く耳を傾けました。

大使閣下をはじめ会場内の数名の方々、私が人生で初めてお会いするマラウイの方々です。私は、特にご婦人の方のドレスやスーツに「色の合わせ方が素敵!」とファッションチェックしながら目を奪われていました。



▲ 慰霊碑前で

午後3時からは慰霊碑前での黙祷のあと、「シマを食べる会」が始まりました。オープニングはマラウ

イの国歌。初めて耳にする音楽、そしてテーブルの上には初めて見るシマ。私も今後大いにお世話になるであろうシマを、どきどきしながら口にしました。味はとても淡泊、食感も軽くもちとして、何だか癖になりそうな感じです。その後、急激に親しみを覚え、遠慮もなく何個もいただきました。豆の煮込みをはじめ、味わい深い料理とシマとの相性はとても良く、「こんなに美味しいものが待っているのなら、私のマラウイでの2年はきっと大丈夫だろう!」と、不安な気持ちを後押ししてくれる勇気をいただきました(単純すぎるでしょうか?)。抽選会では、マラウイの日常には欠かせない「チョンベ・ティー」、しかも500gパックが当たり、その大きさにもビックリ。また、協力隊OBの方々からいろいろな体験談などを、他の皆様からマラウイとの関わりなどを伺い、楽しいひとときを満喫しました。『マラウイに渡ったら、地域の方々と積極的に触れ合い、充実した活動を行えるよう頑張りたい。帰国し、会で出会った皆さんにまたお会いしたい』と考えながら帰路につきました。

最後に、春以降さまざまな情報を毎回ご丁寧にご案内くださった協会理事の方々、新参者をあたたかく受け入れてくださった数原会長をはじめ協会の皆様、そして私に貴重な機会を与えてくださいました大使閣下をはじめ大使館の皆様、心より御礼を申し上げます。楽しい時間を、ありがとうございました!



▲お開き前の記念集合写真

イベント 国情セミナー要旨

- 日時：2009年7月4日(土) 14:00～15:00
- 場所：JICA地球ひろば 2階セミナールーム
- 講師：駐日マラウイ国大使
H. E. Mr. Roosevelt L. Gondwe

1.0 はじめに

今年も「シマを食べる会」にマラウイ大使館をご招待くださったことに対してお礼申し上げます。今日はマラウイ大使館関係者に加えて日本の大学で学んでいるマラウイ人も参加しています。

いつものように、マラウイの様々なことがらについて昨年の講演以降の新しい情報をお伝えいたします。こうして毎年私たちが集まるのは価値のあることです。外国で自分の国に来たことのある人々に会うのはすばらしいことです。今日の会の後でも、もし時間があれば、マラウイと日本の関係をより豊かなものにするためにもっとお話しし多くの情報を共有する機会を持ちたいと思います。

今日はマラウイの次のことがらについてみなさんと情報を共有したいと思います。

- ・ 政治面での進展
- ・ マラウイの経済
- ・ 農業と食糧安全保障
- ・ グリーンベルトと水資源開発
- ・ 教育・科学・技術
- ・ 交通基盤とンサンジェ世界内陸港開発
- ・ 総合農村開発
- ・ 保健とHIV/エイズ管理
- ・ エネルギーと鉱工業開発
- ・ 貿易

2.0 政治面での進展

2.1 ビンゴワムタリカ大統領の再選

ビンゴワムタリカ大統領と大統領の政党である「Democratic Progressive Party」(民主進歩党)が2009年5月19日の選挙で地滑り的な大勝を上げ

た。同党は国会の193議席中137議席を占めた。大統領は2009年5月22日に就任し再度5年間の任期を務める。

大統領は2009年6月15日に11人の女性閣僚を含む新内閣を発表した。ジョイス・バンダ前外務大臣はマラウイで最初の女性副大統領に就任した。

2.2 マラウイの大臣の訪日

日本とマラウイの関係は成長を続けている。2008年12月にはジョイス・バンダ外務大臣(当時)が訪日した。また2009年には2月にグッダル・ゴンドウェ財務大臣(当時)が、3月にケン・リベンガ経済計画・開発大臣(当時)が来日した。大臣の来日中には日本政府要人と開発やアフリカ開発会議(TICAD)の進行について話し合いを持った。

2.3 第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)行動計画

2009年3月21日と22日には、日本政府は、第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)行動計画の実施の一環として、TICAD IV閣僚級フォローアップ会議をボツワナの首都ハポロネで開催し、マラウイからの代表も出席した。

2009年6月15日から17日には、日本政府は第5回

アフリカ-アジアビジネスフォーラムをウガンダの首都カンバラで開催し、マラウイからの代表も出席した。

3.0 経済

2008年には、マラウイは、安定した政治経済環境のなかで、引き続き高いマクロ経済成長指標を維持した。2008年のマラウイの経済成長率は9.7%であり、サハラ砂漠以南の諸国の目標である6%を上回った。またインフレ率は8.7%と一桁を維持した。金利も低水準であった。

4.0 重点の中の重点

大統領は、2009年6月23日の国会開会にあたっての一般教書演説の中で、重点の中のさらに重点となる経済推進のための次の9分野を発表した。

1. 農業と食糧安全保障
2. グリーンベルトかんがいと水資源開発
3. 教育・科学・技術
4. 交通基盤とンサンジェ世界内陸港開発
5. 気候変動・自然資源・環境管理
6. 総合農村開発
7. 保健・衛生・HIV/エイズ管理
8. 青少年育成と強化
9. エネルギーと鉱工業開発

上記は、「マラウイ成長・発展戦略」と「国際連合ミレニアム開発目標」にそって進められる。

4.1 農業と食糧安全保障

マラウイ政府が継続的に実施している投入補助事業の結果、2008/2009年期にはトウモロコシの生産は需要を上回った。マラウイは377万トンのトウモロコシを生産した結果132万トンの余剰となった。こうした補助事業は紅茶やコーヒーにも拡大された。他にも、米、落花生、カッサバ、さつまいも、ソルガム、アワが余剰生産となった。



▲セミナーの様子

4.2 グリーンベルトかんがいと水資源開発

マラウイ政府は、天水農業への依存を減らすために、グリーンベルトかんがい事業の実施を始める予定である。この事業により、最終的には100万ヘクタールの土地にかんがいが行きわたり、トウモロコシ、米、小麦、豆類、ヒマワリ、サトウキビなどのさまざま

な穀物の生産が拡大することになる。

また、マラウイ政府は国家水資源開発事業を引き続き実施しており、すでに3万人を超える人々が都市給水事業の受益者となっている。掘削孔(井戸)、土石ダム、小規模自作農家かんがい事業なども実施されている。

日本政府は、かんがいシステムや農村部での井戸掘りによる安全な水の供給に積極的に支援してきている。

マラウイ政府は2009/2010年度においても水資源開発事業を継続する。

4.3 教育・科学・技術

マラウイ政府は、教育・科学・技術が国の社会経済の発展の要であると認識している。

そのため、マラウイ政府は次の会計年度に29のコミュニティ昼間制中等学校を改善する予定である。

日本政府は中等学校の理科科教員の研修にも協力してきている。これは大変素晴らしい事業である。

4.4 交通基盤とンサンジェ世界内陸港開発

マラウイ政府は、国の発展における基盤整備の重要性を考慮し、道路の建設と修復を継続している。

TICAD IVでの公約の実施の一環として、日本政府は、フランチア市のチベンベ道路の修復・2車線化を支援した。

マラウイ政府はチレカ国際空港に新しく航空・通信機器を設置するとともに、カムズとチレカの両国際空港のターミナルビルディングを修復する予定である。

4.5 総合農村開発

マラウイ政府は、農村部の貧困撲滅のための鍵となる戦略として、農村部へ開発を拡大してきた。

マラウイ政府はソンバのマタワレ地区やムジンバのエヌクウェニ地区に市場を建設することを計画している。

日本はマラウイの一村一品運動支援を継続している。現在32の活動団体が登録されており25種類以上の製品を生産している。これらの団体は国際協力機構(JICA)の技術支援、トレーニング、機材調達などの支援を受けている。

4.6 保健・衛生・HIV/エイズ管理

マラウイ政府はンコタコタに新病院を建設し、リロンゲのプワイラ病院を改善した。幼児の予防注射も実施した。

マラウイ政府は、新病院の建設、病院の改善、子供へのビタミンAと鉄分サプリメントの配布継続、さらに学校給食プログラムの継続を計画している。

マラウイ政府は25万人のHIV感染者にエイズレトロウイルスを配布した。

4.7 エネルギーと鉱工業開発

マラウイ政府は、日本の援助を得て全国の27交易センターの電化を含む第5次マラウイ農村電化事業を実施している。

マラウイ政府は代替エネルギー開発の新領域に努力を傾注する予定である。

マラウイ政府は、カロンガ県のカエレカ・ウラン鉱の開発を委託した。また鉱業への投資を誘致するために好ましい投資環境の整備を進めている。

5.0 貿易の拡大

2008年にはマラウイの輸出は1,040億クワチャに増加した。タバコが全輸出の64%を占め、紅茶、

砂糖、綿、天然ゴムが続いている。マラウイ政府は、パブリカ、蜂蜜、カッサバ、マカデミアンナッツ、手工芸品などの非伝統的な製品の振興を通じた輸出多様化を目指した政策を継続する予定である。

6.0 おわりに

ご参加ありがとうございます。日本マラウイ協会が日本におけるマラウイのプロモーションに積極的な役割を果たしてくださいますことを希望いたします。

投稿

新発見レポート

平成21年度1次隊 小学校教諭 宮澤 尚

二本松訓練所での65日間の訓練を終えた私は、2009年6月24日(水)成田空港を出国。香港、ヨハネスブルクを経由し約26時間のフライトを終え、翌25日(木)午後2時、マラウイの首都リロングウェのカムズ国際空港に到着しました。平成21年度1次隊マラウイ隊員は私を含め男性4名。他に柔道、理数科教師、村落開発普及員がいます。

空港からの道はどこまでも続く2車線のアスファルト。私たちとたくさん荷物を乗せた車は、道路を筆でなぞるかのようドミトリーへと進んでいきました。窓から見える土の色が、いま自分がアフリ

カにいるのだという実感をより強くさせてくれました。

翌日からは早速ミニバスの乗り方を教えていただいたり、先輩隊員に町を案内していただいたりして、マラウイの主食シマを本場マラウイで味わうこともできました。昨年のグローバルフェスタで食べたシマもおいしかったですが、今回は量もたっぷり堪能できました。また、赴任までの間、2週間は現地語であるチェワ語のトレーニング。クンバリロッジでオースティン先生とサイ先生に丁寧に教えていただきました。

私の配属先であるリロングウェ教員養成学校はエリア25(カネゴ)にあり、エリア3のショッピングからミニバスで約30分。キャンパスは学校の建物のほかグラウンド、学生寮、教職員寮と附属の小学校も併設していて非常に大きいです。ウォッチマン(警備員)も24時間常駐していて安心して過ごしています。1970年に建てられた校舎ですが、最近ドイツの援助でリフォームがなされ非常にきれいなたたずまいを呈しています。

先生方も皆気さくなばかり。毎朝顔を合わせると「ムリバンジ(お元気ですか)」「ディリビーノ(元気です)。カヤイヌ?(あなたは?)」「ディリビーノ(元気です)。ジコモクンペリ(どうもありがとう)」と一人ひとり固く握手を交わしながら挨拶をします。もちろん私とだけではなく、先生方同士もみなお互いに同じ挨拶をされています。

小学校の先生を目指す学生たちはワイシャツにネクタイをして、授業を受ける様子も先生に対する態度も言葉遣いも、非常に礼儀正しいのが印象的です。

私のいる算数科の職員室には、積極的に質問に来る学生も多く、先生方もまた熱心に指導しておられます。

クラスはA組からO組まであり、一クラスの人数は45名強。先生の数は41名です。私もこの学校の一員として、お手伝いをさせていただけたらと思っています。自分なりのペースでマラウイアンとともに。そして、ここマラウイでも一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。



▲リロングウェ教員養成学校の職員と筆者

最近のマラウイ関係テレビ/ラジオ番組/記事

(1) 2009.6.21

NHK BS1 10:00~10:10 (10分)
アフリカ自然紀行「巨大ナマズ カンパングの子育て」
- 東アフリカ・マラウイ湖-

(2) 2009.7.6

Japan Times Malawi Independence Day

日本マラウイ協会2009年3月~2009年8月主な活動内容

| | | | |
|------------------|------------------|---------------|--------------------------|
| (1) 2009.3.25 | 月例会、KWACHA第41号発行 | (5) 2009.6.12 | 6月定例会 |
| (2) 2009.4.22 | 4月定例会 | (6) 2009.7.4 | 国情セミナー・シマを食べる会(2-3面記事参照) |
| (3) 2009.4.25~26 | 第3回協力隊まつり出展 | (7) 2009.7.24 | 7月定例会 |
| (4) 2009.5.23 | 第27回通常総会(1面記事参照) | (8) 2009.8.26 | 8月定例会 |

日本マラウイ協会情報

■「グローバルフェスタ2009」出展協力者募集

毎年恒例の「グローバルフェスタ」が、来る10月3・4日(土・日)の2日間、東京・日比谷公園で開かれます。日本マラウイ協会は今年もこのイベントに出展し、マラウイの紹介や民芸品の販売などを計画しています。当日のスタッフを募集していますので、お手伝いいただける方は右記の電話・FAX・E-Mailへご連絡をお願いします。

■当会の新メールアドレス

当会のメールアドレスはプロバイダーの都合により次のように変更になりましたので、ご注意ください。

新: japan-malawi@auone.jp

旧: japan-malawi@mc.newweb.ne.jp (2009.10.31までは使用可能)

■KWACHAバックナンバー

当会は昨年2月26日に設立25周年を迎えましたが、設立時の機関紙KWACHA第1号から第42号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

URL: <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

■日本マラウイ協会の刊行物

(1) チェワ語辞典 統合改訂版(2000年7月発行)
B5版186ページ 1部1,500円(送料290円)

(2) マラウイ旅行ガイド 新訂第2版(97年7月発行)
「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5版108ページ1部1,200円(送料210円)

(3) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版(94年7月発行)
A4判40ページ 1部1,000円(送料210円)

送料は「ゆうメール(旧冊子小包郵便物)」扱いで表示しています。複数種を1冊づつご注文の場合は次のとおりです。

(1)+(2) = 340円

(1)+(3) = 340円

(2)+(3) = 290円

(1)+(2)+(3) = 340円

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。

●送金される場合は、事前に必ず注文内容(希望する「刊行物名」、「部数」、「発送先」、「申込者の氏名、電話番号」)をメールまたはFAXでご連絡ください。

■ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則毎月第3水曜日18:30~に、東京都内(通常はJICA広尾:地球ひろば会議室)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

■日本マラウイ協会 入会方法

新規入会希望の方は、メールまたはFAXでご連絡ください。入会申込書をお送りしますので、各項に記入の上、ご返送いただくと共に、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000円)を下記のいずれかの銀行口座へお振込みください。また、継続会員の方は、年会費(個人正会員の場合3,000円)をお振込みいただき、メールまたはFAXでご連絡ください。

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24

青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921 FAX: 03-5798-4269

E-mail: japan-malawi@auone.jp

1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座255739
口座名義: 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

(2)ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキウウ店)
当座預金口座 0013125 口座名義: 日本マラウイ協会
(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号: 00190-7-13125)